

・ trinkst sein Schöppchen.

・ Mein Fritzchen lieb sich das nicht zweimal sagen..

そこでは、外界の事物あるいは人を述べるのに、所有形が用いられているが、このような possessif は私達にとって、より人間の心を動かし、その言いまわしは、より暖かみのある、情操豊かなものになっているのである。

こうして“Dativus ethicus”という一つの、ささいな現象を、眺めてきたのだが、私達の言語生活において、聞き手の心の中に入り込んだものが、直接に聴取された語に結びつけられる概念ではないということは、しばしばありがちなことである。すなわち、むしろ語なる資材、言語材料は、言わば、ただ話者から聴者に伝達されるべき感情への導線として、使われているということに、私達は注意せねばならないであろう。

続・言葉の四っ角

古 浦 敏 生

「広大言語」第6号における拙稿「言葉の四つ角」は、ある程度以上面白かつた、との評があつたので、今回も執筆することにした。

昨年11月23日の朝日新聞には、次のような記事が出ていた。『妻をしめ殺す。生活苦の運転手。22日午前1時10分頃、広島市荒神町、高田 穰さん(37)が「知人が夫婦げんかのすえ妻を殺したらしい」と広島東署に届けた』とあつた。この文章は2通りに解釈できる。

- (1) 知人の妻が殺された。
- (2) 高田さんの妻が殺された。

どちらが正しいかは、この記事の続きを読まねばわからない。即ち、「同署が広島市稲荷町、自動車運転手〇〇(28)方に行つたところ〇〇の妻、君子さん(34)がフトンの中で死んでいた」。

ある友人から年賀状が届いた。「あけましておめでとうございます。……挙式以来、早いものでもう9ヶ月たちました。おかげ様で深い感謝と共に新しい年を迎えたこの幸せを心にしっかりと銘記して今年こそは立派な社会人に、なるべく努力するつもりであります。……」。

「立派な社会人になるべく、……」としておけば、誤解されずに済んだのに……。しつかり努力されたし。

本年は、いろいろ選挙があつて、にぎやかな日も続いた。1月30日(月)のNHKテレビ7時半より衆院選挙後の座談会があつた。まず東京と大阪の市民の声を聞いたあと、司会の唐島喜智三氏曰く、「ただ今のガイロクを見て御感想は?」。これは「街頭録音」のことらしい。

その後、県会、市会 etc の選挙があつた。追い込みに入つた頃、ラジオ、テレビで、「どの候補者も、フドウ票の獲得にやっきになつています」というアナウンサーの声をしばしば耳にした。これは、「浮動票」か? 「不動票」か?

広島バスセンターから郊外バスに乗つた。車掌曰く、「長時間の御乗車お疲れ様とは存じますが、しばらくの間御しんぼう願います」。「長時間」なら「しばらくの間」じゃあないじゃない?

「広大言語」第6号にも登場した隣の婆さんは、広島女学院大学に行つている孫娘について、「今日、孫はサイクルに行きました」と云つていた。これは、どうやら、孫がサークル(circle)活動でサイクリング(cycling)に行つたことを云つたものらしい。

鷹ノ橋から広大北門へ行く途中に、次のようなカンパンを出している店がある。「卸の小売の店、名井コーヒー」。これは、卸の値段で小売をする店という意味なのか? それとも、卸と小売と両方を兼ねた店という意味なのか? 誰かコーヒーを買いに行つてみませんか?

私の叔父は、現在、食品工業試験場で、「如何にすればうまい酒ができるか?」というテーマで研究を続けているが、仕事の都合で賀茂郡西条町の酒屋へも時々指導に行く。その酒屋の親父さん連中は、データ(data)のことを、たいてい、レータと云うそうである。これは、恐らく、「例」にひかれたものであろう。

拙宅の近くに土井紅葉園という植木屋がある。この植木屋では、2年位前からスピーカーを備えつけ、仕事であちこち広い庭に散らばつてゐる職人達に連絡している。このスピーカーの声は、拙宅にもよく聞こえる。「○○さん、皆んなつらつて事務所まで帰つて下さい」。これは、「つらなつて」のつづまったものか?

本年度のオールスター戦は、パの3連勝に終つた。第1戦、NHKテレビの解説者は、小西得郎氏。曰く、「縄本(阪急)の2球目は、サイダースローでしたね」。正しくは、サイドスロー。アンダースローにひかれたものらしい。

続く第2戦、中国テレビの解説者は、別所氏。アナ「別所さん、足立(阪急)は疲れてやしませんか?」。別所「足立は、オールスター前の前半の後半にはいつも疲れるんですよ」。何だか

わかりにくい解説である。これは、恐らく、「前半戦の終り頃（即ち、オールスター戦の直前）には疲れが出る」という意味であろう。

本年8月4日（金）の朝日新聞に、「新幹線で巡查刺す。ノイローゼの大学浪人」とあつた。はて、大学浪人とは？さきを読んでみよう。「無職〇〇は、昨年高校を卒業、2度大学受験に失敗し、東京で浪人中」。なあんだ、ただの浪人じゃあないか。「大学は出たけれど……」という浪人かと思つた。

「言葉，コトバ，ことば」

松 川 弘

試験も終りほつとしているときに、三年生の先輩者氏からのありがたい原稿の催促状が武田山のふもとにあるわが家にまいこみ、つれづれなるままにペンをとり、かく始末です。

以下は私の学校への行き帰りのバスの中や家の附近で体験したことです。

先日、図書館からの帰りバスに乗ろうと思い、バスセンターの前に行つて面白い看板をみました。というのはある保険会社の宣伝でしたが、内容は「安心をつかみましよう。」というものでした。これをみて我輩しばし考えてみるに末だ『安心』というものをみたこともなければ、食べたこともないので少々面くらつた感もありましたが、そこはそれ、我輩の〇〇なる頭脳をもつてしてわかりはしたものの、もう少し配慮していただきたいものである。（〇〇には好きな文字をいれていただきたいが、誤解があつてはこまるので漢字で二字、カナで㊦ではじまり㊧で終るものであるからまちがいのないように願いたい。）

僕が、愛犬を散歩させていた時、ふと電信柱に目をやるとあるカメラ店の宣伝文句に、「証明免許撮影」とかいてあつた。免許証が写真をとるだけでできるものなら金もかからず大変便利なのではないだろうか。わざわざ観音の公安委員会にでかけていかなくてもできるなんてこのうえないことではないだろうか。これも「証明、免許用の写真撮影」とかえていただきたいものである。

次は交通標識にかかれていたことであるが、知る人のみぞ知つている様に、祇園にはフマキラーという殺虫薬の工場がありますが、その門を通りすぎる際に大変面白いものをみました。交通標識に「除行」とかいてあつたので、考えてみるにつまり「車両進入禁止」のことではないかものすごい誤解を招くところでした。ちよつとした不注意から「除行」と「徐行」をまちが